

AWARDS FUKUOKA 2017 エントリーシート

事業名称	「糸島塾2016」～Global Country Kids～
申請LOM名	一般社団法人 糸島青年会議所
事業年度LOM会員数	65名
事業年度理事長	千住 朋数
2017年度理事長	田中 健二
事務局住所	福岡県糸島市前原中央2丁目4-18林ビル2階
事務局TEL/FAX	TEL: 092-323-2846 FAX: 092-324-3134
担当者	氏名: 西 敬子 電話番号: 090-7153-0410 E-Mail: keiko.nishi@nishi-goudou.com

事業参加者 (実施合計 名)	J C 会員数	実施	57名	計画	65名
	協力団体・企業 などの関係者数	実施	650名	計画	650名
	一般参加者数	実施	40名	計画	30名
事業実施に至る背景	<p>今まで数多くの感性豊かな人材を国や地域のリーダーとして輩出してきた糸島も、個人を重んじる教育により、国に対する帰属意識や郷土を愛する想いが希薄になり、利己的な風潮が蔓延し地域のリーダーが出現しにくい状況を迎えています。世界との距離が短くなり国際的な時代を迎えている今こそ、地域の未来を見据え、「郷土愛」「国家愛」を併せ持った国際社会を先導できる、牽引力あふれる人材の育成が必要です。</p>				
事業目的 対外	<p>地域の未来を見据え、「郷土愛」「国家愛」を併せ持った国際社会を先導できる、牽引力あふれる人材の育成を目的とします。</p>				
事業目的 対内	<p>子どもたちへの指導やコミュニケーションを通し、メンバー各自の資質の向上につなげるとともに、責任感・郷土愛・国家愛を養うことを目的とします。</p>				
事業内容 400文字程度	<p>【第1回事業 開塾式】 開塾式・親子参加型による地域問題への思索および竹加工、竹工作を行い、規律・規範の意識を醸成し、地域の抱える課題に親子で取り組み、郷土を大切に作る心や態度を育みました。</p> <p>【第2回事業】 立命館アジア太平洋大学留学生とともに地引網体験および、第三回事業で使用する出店看板づくりを行い、郷土に対する愛着を持つために、郷土を作り上げてきた豊かな自然の恵みへの感謝の心を育むとともに郷土の良さを再認識しました。</p> <p>【第3回事業】 一般社団法人福岡青年会議所、アジア太平洋子ども会議・イン福岡</p>				

	<p>と共同し、同年代の様々な国の子供たちとともに様々な体験することにより、さまざまな国の文化と触れ合い、世界に対する理解と尊重の念を醸成するとともに郷土愛・国家愛を育み、国際社会を先導できる人材になる機会を提供しました。</p> <p>【第4回事業 閉塾式】</p> <p>郷土愛・国家愛をテーマにした塾生発表および閉塾式を行い、子どもたち自身が本事業を通して得た経験や体験を発表する機会を設け、地域へ郷土や国を想うことの大切さを伝播しました。</p>	
事業の概要 (○を付けてください)	開催の形式	主催・共催・主管・副主管
	事業対象者	メンバー・市民・小学生・その他学生・その他
	事業区分	新規事業・継続事業
	公益・共益区分	公益・共益
事業予算・決算	予算額	¥1,277,490-
	決算額	¥1,277,490-
開催日時	2016年 6月 5日 : ~ 8月 7日 :	
開催場所	<p>【第1回事業】 糸島市立可也小学校体育館 (6月5日)</p> <p>【第2回事業】 初音旅館 (6月26日)</p> <p>【第3回事業】 海ノ中道青少年海の家及び福岡市立西戸崎小学校 (7月13日・14日)</p> <p>【第4回事業】 あごら内視聴覚室 (8月7日)</p>	
協力団体	共催	<p>【第3回事業】</p> <p>一般社団法人 福岡青年会議所</p> <p>アジア太平洋こども会議・イン福岡</p>
	協賛	
	後援	糸島市、福岡市、糸島市教育委員会、福岡市教育委員会、糸島ロータリークラブ、糸島ライオンズクラブ、伊都福岡ライオンズクラブ
	その他	
事業実施へ工夫した点とその効果400文字程度	<p>第1回事業は親子参加型にすることによって、地域の問題に取り組むため一人ひとりが問題意識を持つことの大切さを家族で学んでもらうことで、理解を深めてもらえました。</p> <p>第2回事業においては、立命館アジア太平洋大学の留学生に対し、塾生が取材ノートを用いて他国の文化や海外の方の視点から日本や糸島に対する</p>	

	<p>率直な感想を知ることで、郷土に対して新たな気づきのきっかけを与えることができました。</p> <p>第3回事業では、一般社団法人福岡青年会議所、アジア太平洋子ども会議・イン福岡と共同し、海外子ども大使228名との交流を図りました。また、宿泊の際には、塾生ひとりと海外の子どもたち5～6人とが一部屋に泊まることで、短い時間の中で深く交流することができました。</p> <p>第4回事業では、塾生自身が「郷土愛」「国家愛」について考え、それに伴った感謝を保護者・来賓の前で発表することで、成長した姿を見てもらい、国際社会を先導できる、牽引力あふれる地域のリーダーとなる自覚を養いました。</p>
<p>地域社会への影響 400文字程度</p>	<p>糸島に多くある地域問題の一つである竹林問題に親子で取り組み、子どもたちは熱心に講義を聞き、竹工作をつくり「郷土」に対する思いを改めて育む機会となりました。海外の留学生を糸島に招いた際も、子どもたち自身が地引網体験の中で郷土の自然や食に対して感謝の心、他国の文化や風習に触れることで自国の「いただきます」「ごちそうさま」といった挨拶の意味を学び、その結果今後の生活の中でより感謝の心をもって行動する気持ちが芽生えました。親元を離れてのキャンプ事業では、言語の通じない環境や生活習慣の相違のなかでも、子どもたちはボディランゲージでコミュニケーションをとり、その順応性をいかんなく発揮し、海外の子どもたちとともに集団で行動することを学びました。キャンプの経験が、一過性のキャンプにならず、世界に対する理解と尊重の念が芽生え国際社会を先導できる人材へと成長する機会になったと確信します。集大成となる閉塾式では、郷土への感謝やリーダー像を堂々と保護者の方々の前で発表しその成長をしっかりと見せ、参加した子どもたちを、国際社会を先導する地域リーダーへと育成できました。</p>
<p>LOMへの影響 400文字程度</p>	<p>メンバー同士の思いやりを大切にした組織運営を行い、青少年育成事業を実施していくことで、私たち自身も地域リーダーを育成し、地域に根差し、地域に必要とされる組織に近づけたものと確信しています。</p>
<p>事業PRポイント ご自由に記載して下さい</p>	<p>第3回事業においては、一般社団法人福岡青年会議所、アジア太平洋子ども会議・イン福岡との共同事業においてはそれぞれの団体の目的を達成するために打ち合わせを重ねることでそれぞれの目的を達成することができました。</p> <p>また、子供たちには、日本に学びにきた留学生や同世代の子ども達との交流の中で、郷土・母国を大切に思う心、他国の文化を尊重する心を養うことができたことと確信しています。</p>

事業風景写真も4～5枚程度あわせてお送り下さい。

エントリーアドレス：fukuoka.awards@gmail.com